

課題対応取組報告書

名称	住之江区地域包括支援センター				
提出日	令和	7	年	6	月 20 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等 ☐ 認知症高齢者等の支援 ☐ その他 ()	☐ 社会資源の創設 (居場所づくり等) ☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	より身近な権利擁護の活用	
地域ケア会議から 見えてきた課題	認知機能や判断力の低下により、金銭管理ができなくなるケースが増えているが、成年後見制度など権利擁護の制度につながりにくい。	
対象	地域住民、介護支援専門員	
地域特性	○総合相談対応の中で、高齢者の状態や生活環境をアセスメントしたうえで、あんしんさぽーと事業あるいは成年後見制度の活用を検討しているが、高齢者やその家族等の意向が定まらず、円滑に制度につながらないことが多い。 ○ケアマネジャーにおいても、制度を活用できる対象等について誤解されていたり、制度につなぐことを高いハードルと感じておられることがある。	
活動目標	専門職向けと区民向けに分け、成年後見制度についてセミナーを開催し、身近で活用しやすい制度の一つとして、広く周知・啓発を行う。	
活動内容 (具体的取組)	コスモスおおさかに講師依頼し、介護支援専門員と地域住民向けのセミナーを開催した。 ①専門職対象 R7.1.23 (木) 14時～15時半「多職種連携のための学習会 成年後見セミナー」 参加人数：40名 事前アンケートをとって介護支援専門員が知りたい内容をもとに講義してもらうことで今後の支援に活かしてもらえよう図った。事前アンケートでは成年後見制度の活用について「検討したが利用に至らなかった」という回答が最も多く、「申立費用やその後の費用について知りたい」「費用の捻出が難しい場合の申立はどうしたら良いか」「申立を検討している利用者がありセミナー終了後に相談したい」「死後事務委任について知りたい」等の希望があった。また、あんしんさぽーと事業について担当職員から説明してもらい、成年後見制度との違いも含めて理解促進を図った。 ②地域住民対象 R7.3.26 (水) 13時半～15時半「成年後見・遺言・相続セミナー」開催 参加人数：30名 事前に介護家族の会「さざなみ会」の参加者からの意見・要望を聞いたうえで、成年後見制度だけでなく遺言・相続も含めた内容でのセミナーを開催した。「将来に対する不安を整理し、今できることを考えよう」というテーマで、事例をもとに自分や家族等の身近なこととしてイメージしてもらい、ACPの必要性も含めて学べる内容だった。Q&Aコーナーでは、相続や死後事務委任、終活、住まいの選択、遺言等についての説明をしてもらい、参加者が気になっていること、知りたいことを聴けるようにした。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	①専門職向けセミナーについては、「任意後見と法定後見の違いが分かった」「書面で詳しく説明されるより、寸劇で分かりやすかった」「あんしんさぽーととの違いも分かった」「手続きや費用面など、全く知らなかったので参加して良かった」「後見人が出来ないことも分かって良かった」等の感想を得た。 参加者の半数からは、成年後見についての考え方が「変わった」との回答を得て、ある程度制度を身近に感じてもらう効果があったと考える。 ②地域住民向けセミナーについては、内容について「難しかった」と感じた方が28%、「ふつう」が44%、「わかりやすかった」が28%となっており、難しいと感じた方が1/4程度おられたが、「独り者で財産もない人間には関係ないと思っていたが、そうでもないと分かった」との感想もあり、自分事として認識してもらえる機会となった。 また、「さざなみ会」の紹介をしてもらう時間をつくり、介護家族の会について知ってもらう機会にもなった。	

今後の課題	専門職からは「知っていた内容が多かったので、もう少し踏み込んだ内容を知りたい」「やはり成年後見は利用しにくいと感じた」という感想もあり、専門職が「利用しにくい」と感じる要因を踏まえながら、その不安や不明点の解消をすすめていく必要がある。 地域住民については、事前の意見を反映して講座内容が盛りだくさんになった面があり、テーマ別に複数回に分けて開催する等の工夫が必要だと感じた。
※以下は、区運営協議会事務局にて記入	
区地域包括支援センター運営協議会開催日	令和7年7月24日（木）
専門性等の該当 （※該当個数は問わない）	☐ 地域性 ☐ 継続性 ☐ 浸透性・拡張性 ☒ 専門性 ☒ 独自性
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取組継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	・権利擁護にかかる制度について知らない人がたくさんいる、知ることがプラスになる。 ・事前アンケートでニーズを把握して、企画を進めているのが良い。